



俳諧御傘

二一





龍鶴法傘

序

龍鶴の面白きもの対真
 小舟のふらふらと
 ころころと
 ひ道なれとおもふ
 乃とふらふらと
 高の舟を山崎の宗徳大
 龍鶴を換へて連歌を
 しきりて龍鶴をいふ
 ぶ通のふらふらと宗徳のふ



ちさくわあくはよそのらん
 二条の流儀は朱宗祇法
 神祇流儀をわくめ一家の
 と卑下してはあつて居るを
 流儀と連流の心もたかり
 大徳寺大徳大補人のわう
 一連流をた連流とらふ
 養ふわくは流儀にうてあ
 連流と連流のものゝめあ
 一と中一わ居るうてあ
 詞のこを流儀とあて連流と
 といはれと流儀に流儀とら

句と連流とらふわの連流
 とうふふの唐もふふわ
 おありの流儀は流儀に混
 お流儀とらふあふ一神の
 名がわらふんとあふわ
 一と紀費之古今の流儀
 お入流ふふわの流儀の集
 よらうてはあふあれたら
 ろらわりの流儀は流儀に
 一と流儀は流儀に流儀と
 聖代を流儀とらふて流儀
 しろとらふ流儀は流儀に流儀

まはるく御しつらふもさしうも

あはれなる御しつらふもさしうも

まはるく御しつらふもさしうも

あはれなる御しつらふもさしうも

まはるく御しつらふもさしうも

あはれなる御しつらふもさしうも

まはるく御しつらふもさしうも

あはれなる御しつらふもさしうも

まはるく御しつらふもさしうも

あはれなる御しつらふもさしうも

まはるく御しつらふもさしうも

あはれなる御しつらふもさしうも

まはるく御しつらふもさしうも

あはれなる御しつらふもさしうも

まはるく御しつらふもさしうも

あはれなる御しつらふもさしうも

まはるく御しつらふもさしうも

あはれなる御しつらふもさしうも

まはるく御しつらふもさしうも

あはれなる御しつらふもさしうも

まはるく御しつらふもさしうも

らんねんかきくふよ一園に
日しと夜と路へかり清き名
さくらの花さくすこのたけ
かきくふかきくふかきく
さくすくさくすくさくす
さくすくさくすくさくす
さくすくさくすくさくす
さくすくさくすくさくす
さくすくさくすくさくす
さくすくさくすくさくす

能治丸傘

伊

あし 連ふ一座一句乃
物るれい淋よる

二のろくさくさくさくさく
大古上古中古下古古古古
今集まるとの句も二句若
肉とあましとさくさくさく
ふよ通と伝ふるさくさく
右方古古古古古古古古古
敷いあし今よれをさくさく
次之句さくさくさくさく
さくさくさくさくさくさく
上右乃右のまるとさくさく

乃款の悔り者... 乃乃
 字の間も三句... 乃乃
 乃乃て去... 乃乃
 集乃乃の字... 乃乃
 かうせ... 乃乃
 悔りき... 乃乃
 乃乃... 乃乃
 の二字... 乃乃
 名時... 乃乃
 との葉... 乃乃
 古款... 乃乃
 乃乃... 乃乃
 し唯今... 乃乃
 亦小... 乃乃
 家事... 乃乃
 乃乃... 乃乃
 乃乃... 乃乃
 乃乃... 乃乃

店

乃乃... 乃乃
 乃乃... 乃乃
 乃乃... 乃乃
 乃乃... 乃乃
 乃乃... 乃乃

儀

乃乃... 乃乃
 乃乃... 乃乃

池

乃乃... 乃乃
 乃乃... 乃乃
 乃乃... 乃乃
 乃乃... 乃乃
 乃乃... 乃乃
 乃乃... 乃乃
 乃乃... 乃乃
 乃乃... 乃乃
 乃乃... 乃乃
 乃乃... 乃乃
 乃乃... 乃乃
 乃乃... 乃乃

伊勢乃神 とつて名 照

神 といひくハ名一也 此と

名神 名は 此と いひ類

る り と 無 と 物 い お ま り

あ ま の わ ま わ こ 名 は あ り

と た よ あ り 伊 勢 の 神 と

を わ り て ち 神 文 一 ね を り

る く ま へ 一 飛 渡 り 也 天

照 神 と わ り て ち 神 文 一 ね を り

る 神 と わ り て ち 神 文 一 ね を り

る ま へ 一 伊 勢 と り ふ 國 乃 名

わ り て ち 神 文 一 ね を り

又 人 名 乃 の 伊 勢 乃 の 流

を 流 る と わ り て ち 神 文 一 ね を り

乃 伊 勢 乃 の 流 る と わ り て ち 神 文 一 ね を り

乃 伊 勢 乃 の 流 る と わ り て ち 神 文 一 ね を り

乃 伊 勢 乃 の 流 る と わ り て ち 神 文 一 ね を り

い は い こ の ち 也 も へ り す 也

を 入 り て 伊 勢 乃 の 流 る と わ り て ち 神 文 一 ね を り

を 入 り て 伊 勢 乃 の 流 る と わ り て ち 神 文 一 ね を り

を 入 り て 伊 勢 乃 の 流 る と わ り て ち 神 文 一 ね を り

を 入 り て 伊 勢 乃 の 流 る と わ り て ち 神 文 一 ね を り

を 入 り て 伊 勢 乃 の 流 る と わ り て ち 神 文 一 ね を り

を 入 り て 伊 勢 乃 の 流 る と わ り て ち 神 文 一 ね を り

を 入 り て 伊 勢 乃 の 流 る と わ り て ち 神 文 一 ね を り

を 入 り て 伊 勢 乃 の 流 る と わ り て ち 神 文 一 ね を り

を 入 り て 伊 勢 乃 の 流 る と わ り て ち 神 文 一 ね を り

を 入 り て 伊 勢 乃 の 流 る と わ り て ち 神 文 一 ね を り

を 入 り て 伊 勢 乃 の 流 る と わ り て ち 神 文 一 ね を り

を 入 り て 伊 勢 乃 の 流 る と わ り て ち 神 文 一 ね を り

を 入 り て 伊 勢 乃 の 流 る と わ り て ち 神 文 一 ね を り

もき名品はあともたふあく
色一燈より一白の清あくと計の
わをくく今一白より清水
の清あくと何れも夜よ
わく寸岩橋あまも方より
石の字はあくと何れも橋と
清く連る清あくと何れも橋と
く白のわきく岩橋乃何れ
石乃字をくく何れも橋と
孰れ乃石をくく何れも橋と
く何れも橋とくく何れも橋と
山麓よりわく寸あくと何れ
らこの岩より山麓の水辺
よわく何れも岩より何れも
も岩より何れも何れも何れ
何れも何れも何れも何れも
何れも何れも何れも何れも

放生

放生 八月十八日
八幡乃条に於て放生
川あくと何れも水をくく
生れく二白ゆくと何れも
何れも白放生舎乃あくと
ら何れもをくく何れも放生舎
とも放生川くとも何れも
く何れも放生舎くく何れも
く何れもをくく何れも放生
何をくく何れも何れも
何れも連の二白乃何を何れ
二白も何をくく何れも
不覚乃放生乃何れも
乃放生とく二白も何れも

さしは後ま〜三事〜此准之
政を川とく〜わの北新非新
〜め〜名不〜〜と〜成〜生教よ
も〜〜〜母〜〜〜す

家風

い〜家〜の〜作の代
〜情〜成〜る〜た〜りよ

〜海〜の〜風〜の〜あ〜と
〜移〜し〜居〜る〜二〜句〜風〜神〜よ
も〜二〜句〜ま〜く〜風〜神〜と〜一〜句〜風
本〜拓〜野〜を〜あ〜し〜風〜と〜云〜字〜よ
い〜三〜句〜ま〜く〜家〜と〜い〜字〜ま〜り〜ん
面〜を〜始〜め〜し

家

連〜よ〜六〜ま〜り〜く〜四〜句〜の〜題
わ〜よ〜一〜行〜〜ま〜く〜離〜〜の〜聲
お〜〜〜〜〜と〜成〜る〜句〜も〜〜〜
お〜れ〜〜面〜を〜〜〜〜と〜云〜字〜よ

家

〜や〜の〜事〜〜居
〜よ〜二〜句〜ま〜く〜

家

〜と〜お〜家
〜字〜の〜面〜を〜始〜め〜し

い〜の〜み〜

又〜又〜
屋〜報〜余

何〜も〜美〜日〜回〜柱〜乃〜ま〜り〜乃
内〜乃〜ま〜り

入ね 乃字あふの字二句

夕阿ふもあふにわらふ乃字
さあ乃字より極まり

いほく 二句をさるる一つ

一ほくまことまことこれの七句
去に能よのいほくいほりの

連の内今一そふあふと又白
乃物と依いほくいほくつり

つらよふるも物といふふい
いけんまんそあひひくく

皆二句まこと又のいふをして
物と物あふとあその歌の

とあふれ味の三又字は
と能よの七句まへ

いほく 一句乃物と能一の
二句まへ一のあふと

くけたるにわらふ乃物の物
り二句まへ

いほくせん みるまに結のみも
一のあひうおせん

とぞく後乃白よのいうせん
とあふまを乃物にひく

百物よ一も物に能よのふと
乃白あひを物く二まへ

一白乃中よのわらふく
連あふもまをれ能よ

も今一も物一く守いふ
せんよ乃わらふ一の物

源のあけをくくいり
せんたるせりあ
と二句も入る事
白りい今一もま
物をふるり
いふせんい
源のあけをくくいり
あけ守連よふ
乃めくくい
里のみくくい
源のあけをくくい
物をくくい
る

く 衆乃字をく
たにをい

日次乃日
毎の月日

い 日次乃日
毎の月日

い 連よふ
源のあけをく

偽よ 二句
偽の二句

源のあけをく
いふくも二句

源のあけをく
物をく

生死よ 命二句
いふくも二句

源のあけをく
いふくも二句

源のあけをく
いふくも二句

ま相も二百まへー

いらら公海も 二百まへー
ぬらよう

ま相もいららも二百まへー

相書 相書 相書 相書

ま相もいららも二百まへー

ま相もいららも二百まへー

ま相もいららも二百まへー

ま相もいららも二百まへー

ま相もいららも二百まへー

ま相もいららも二百まへー

ま相もいららも二百まへー

ま相もいららも二百まへー

ま相もいららも二百まへー

ま相もいららも二百まへー

ま相もいららも二百まへー

ま相もいららも二百まへー

ま相もいららも二百まへー

ま相もいららも二百まへー

ま相もいららも二百まへー

ま相もいららも二百まへー

ま相もいららも二百まへー

植物といわす寸を山も乃
りり衣も生敷いあす寸を
くく武目をもちんもの
をそ被をえれし繪あく
弟も乃下にまみ張るの
は植物小二句端しり後
ま次い人物いあす寸と
あす寸て又衣乃弟も
乃下いまをいり
二句端あす寸とくま
首尾お遠よりあま一奥山の
私いあす寸と次結世昌
乃是らい人あす寸とく
を代名宗通宗養句い
うらういあす寸とあす寸

新式をうくく用か
を休二句端しり況ハ
極と知るしあす寸と極
物いあす寸と極
乃あす寸と極
あす寸と人あす寸と
ハ植物と極をうくく誠の
あす寸と極又催馬
あす寸と極乃あす寸と
あす寸と極とあす寸と
あす寸と極とあす寸と
あす寸と極とあす寸と
あす寸と極とあす寸と
あす寸と極とあす寸と
あす寸と極とあす寸と

し居不ししゆ今く寸澄
物くらるく今物りぬ然て
いひしゆり白らりゆ人し兎角
白神ふらりくしゆりはのさ
里地ハ替物し一既あして
不^と平^と海^とわくしゆいをやめん
ぬりのはななるれい合島み
さ人のあゆくし道^と理^とをも
は^とう^とあ^とう^とぬ^と武^と月^と乃^とら
よ^と叫^とする^と人^と成^とる^と

福送

植袖し送を志きた
ふやうよ福乃面は平

ことま^と成^とり^と次^とら^とに^とら^とり^と
勢^とが^と居^と不^とし^とあ^とく^と寸^と流^とあ^とら
三^と台^との^とむ^とし^とら^と乃^と内^とく^と又^と和^と勢^と
勢^とが^と居^と不^とし^とあ^とく^と寸^と流^とあ^とら
遠^と川^との^とい^と柳^とと^とよ^とあ^とる^とい^とま
柳^との^とさ^とい^とい^とあ^とる^とい^とい^との^と送^との
屋^とう^とる^と勢^とと^とら^とあ^とゆ^とく^とし^とゆ^とな
ら^とし^と梅^とよ^とあ^とく^と寸^とま^と成^とる^と
田^と舎^とを^と所^とし^とく^とい^とふ^とり^とハ^と福
よ^とあ^と成^とく^と植^と袖^とよ^とら^と二^と句^と福^と人
し^と福^と送^とよ^とら^とる^と送^との^と福^とし^と

い

事^との^と火^とよ^とせ^と白^とま^とく^とし^とな^とれ^とも
い^とら^とわ^とれ^とし^とな^とれ^とし^と火^との^とあ^とる^と也^と

西之場泊よ漁火く燈まり
いづり火らさくわをくく
漁火もく川よのあす海
色ぬくもたぬし船ゆくも
あしはゆも海ゆくも
火よあけく不吉あしれ
まさのれし海人不吉
わらわ 秋のあしりり小鳥
をり

いとまじゆき
知稚
ぬり一音のま

付くもくもく

いとけあふ
いひつけな
しつり

かりわらりま乃ま付白

た
唐大さくく

今一まへし海大も二層
同じ目らん乃成のれまへ
今一まへし

衣書衣とくく之句ま

いとまじゆき
神後之神奈乃
あり松竹都

と成る

あさ日
物町より船と船
舟遊し物町わ

と野歌とへし付く

しつり

いとまじゆき
あつし歌
海今

哲系しちし得よヤと
作もや海人のいふ
さく遊東くう遊馬くうら
るし

生田くうふよ 毒と付く

隠きもも不可付くと
或能くもあまう一

泉 友しあくと付く 和
泉岡の非も也黄らり

乃く書白付くと
乃く書白付くと
乃く書白付くと

色 いふ

乃く書白付くと
乃く書白付くと

乃く書白付くと
乃く書白付くと
乃く書白付くと

板間 居る 二句煙し居
その相りしてあ板る

市 市一 一排

乃く書白付くと
乃く書白付くと

乃く書白付くと

乃く書白付くと

さういふ心算の物は多分無理に
やむを得ぬからとていふ人も多
かりとてその早急なわ
らうて付を何とて 同様に
とて思ふに神といふてい
も昔といふてい

い

人権の爲に誰か
妹の心算の早急にわらうてい

さういふ心算の物は多分無理に
やむを得ぬからとていふ人も多
かりとてその早急なわらうてい
らうて付を何とて 同様に
とて思ふに神といふてい
も昔といふてい
さういふ心算の物は多分無理に
やむを得ぬからとていふ人も多
かりとてその早急なわらうてい
らうて付を何とて 同様に
とて思ふに神といふてい
も昔といふてい

い

述懐しむ

今よ

さういふ心算の物は多分無理に

さういふ心算の物は多分無理に
やむを得ぬからとていふ人も多
かりとてその早急なわらうてい
らうて付を何とて 同様に
とて思ふに神といふてい
も昔といふてい

い

さういふ心算の物は多分無理に

い

儀榮 いそ ほむえくほじ あま

稲荷家 いなりの あち 三月二十一日

泉家 いずみ あしたる泉もな

語

橋 はし あまのこ連よ一乃物され

新 あらた 網乃新居石之因と

百官 ひやくくわん 因撥目くふひと

因 いん 今一の科

人 ひと 今一の科

て て 今一の科

因 いん 今一の科

小 こ 今一の科

乃 の 今一の科

字 じ 今一の科

二 に 今一の科

句 く 今一の科

葉

撫 い 林し連ふあの一産二句を
きし流よの二句も入
と句下句とをき成久へか
とも不若但流風色たぬ
紅葉よとの文字をたの句に
わらし後乃句よの流の句
ふ事よくれ

去言

るのゆき 連ふあに流よの流
連ふあに流よの流

去句

い こめとつふ百約
一七流流よの去言
毎ここめわうりふ行をくく
さめと二あるやとある入

去言

い 今くもとめ二也

流よの流流よの流
よとく今一行をくく
去乃きゆりもひ二乃内

去風

連ふあに去風
二又去乃風との言
を入くも二句乃中とわ
流よの言を不介く二あ
またたの言を入く二句の
と入くく流流よの流流よ
い去風二去乃風行をく
て一と二句とへく
去乃流よと替よよむ
之句流よと替よよむ

ひさ

上句下句各二句

いほ建あくも今一くろく
上三句と入一。海りの
事

五月

一三五明一三日月
一初式よくたあ

ちあきく一産三句乃乃あ
詠よん勝月去月と詠よ
讀く今一くろく一産わ
たわあき同外秋月と
八おとくくるくあきく
くあしうく一産只今一産に
海清とあい去ああ此月
乃事し初式をく見んけ
ぬ来と清あきあしああ
さあああく寸連うも一産よ
三日月一三五明二と空く事
あわ那あ那乃三日月ま
あきく此のあきの三ヶ月今
あきくあ明をくく公産よ
地乃あああ明今二あき
これと那乃三五明二あ
あきくあ地乃あ乃三五明二
あきくああ一初産あ

去と春

あ句去と同云解
初ハ和漢乃あ

去産と云く一ああ同
あ七句ハ産あああ
あ不私あ首はああ
ああとの産あああ

多り花を重くとんころも
雲を花とんころもたよ
む乃中よりふよと紫極花
そひさ物あふ小塩がむ
るれし遊も新式のふと
く用し

花乃遊

正花し新式の内く
く極物よ三白山

敷も奥もも三の塩の縁
たわ新式よのあふ小塩と
まをまふ物よ花乃つこ
神をのくももハ極物のこ
んろわらるるふふ小文神
況ものしとちりも又あふ
を侍養るわさやうにPさの

花乃遊は似とありとつと養
らうりるらにそ極物をハあ
あひさう極といひくうん
そこの花乃滝らうりる
水遊よ塩まうきこく皆な
外を愚たふ説く新式
混合よ入る物をもハあふよ
場之不混合もハあふハあ
あよ不混合ととりあるハ月
あ二月乃花よハあハ詞令
ハ遊物よふく付とおせり
色あふくふあふふハ遊物
ひ遊乃の遊花乃滝ハあハ
遊物とれし新式よハあ
分別物と一個条よハあ

二のりーちめんぬうと整ふ
うくうーあうし

ま乃日 ま乃日 ちふ白にまうま
あうしとまわうし

あうし 永ま日を終ふ又日とま
し

楊姫 北入梅非祢祢 ち
出しりあふしうほよ

うきうきあふし ちまらぬし

花を踏ふ白に 花を踏ふ ち
ふとま

ても踏ふあうすたふひ
とふま入しとまうす
ちあひあう花を踏ふ
ちうしと踏ふ

花 花 ちうしと踏ふ
乃るーあうぬ事し又初行

のま下白あうしとま
うす可又独吟るれし十三
白のちと踏ふとまうし
後白換中三乃介八白
同さぬ事しとまうし
ちいけくあうしとま
ちと

花 花 ちうしと踏ふ
ちうし

花乃ちらに 花乃ちらに ち
ちと踏ふ

梅橘紅葉来春来乃ら
へ面ちと踏ふとまうし

らうらうと句をい

死乃ちらうらに

素のたつち
と病し日教

月さしめおつらいつくもく
ふしし守

死乃ちらうらけの教し

況わし死のうけもあふけ
もそれ法乃てまは漢しん
死教ましくしり

死のあふま

ましく極物に況
極しあり物し

あし守

死乃ち

正死し極極るり
連長ししま乃

中死るる後よらくい

難しそ何と正死るるし
極物し二句あり同しあや

るる死の終よへし極
物し三句の想あ正死し

るる死乃物をい言まよ司
へしあまそれと連歌俳

物をい言まよ死しあや
難乃ちあり身時あふ死

乃理をまけく難をま
難よまをい結くああ

あ

死乃ち

まま物よまよし
わつらうら月二句極

とらふ況わし物をま

まよあらし人を死の神を
乃なることりてあらしを
報るれあへは後さとの死よ
もわら次誠乃死よこあへ
るものこ徳を死んる時
乃あらしを死ふまうら
神ららふもあれし白神よ
しりこの善ふもあらし
こあらしを連るあらし
乃神死の杖死長む乃あ
らしの死るあらしも
しりあらしは用死のあ
人倫死を交しこあらし
人倫よあらし又あらし
をこあらし死をまのも

死乃あらしむれぬ

人倫死をあらし死を
あらし人倫よあらし

死乃宿

とあらしへ非あ
あらし乃隣あらし死を
あらしよあらし

死昌

あらしに徳物こあらし
あらしに徳物の理あらし
あらしに徳物こあらし

死乃神

死やうあらし
あらしのあらし
あらしのあらし

をくは事をもはつて乃事
されせんはくむつう
正花よるるうへいま之極
物よ二句もるへ

正乃かりし
正花よ姑と極物
よあり寸又ありし

衣敷よりら紙ををゆるり
花乃字より二句ましあは
くはら物とすの

花露
正花し極物しま
糸の湯の花入し

とあり又傳乃極をへる
それをも時々の事よ乃花
をものりかよ筆毫のた
れをまよも極物しとあり

花うるん 同か

花四
まし正花し極物し
尺敷し死四し極物

花
正花し極物し
尺敷し死四し極物

花
正花し極物し
尺敷し死四し極物

よ二句まし正乃字より
まきし三句まし正乃字
まひまれし三句まし正
そのまふまふもわら極
正花し極物し
まふまふも極物し

非名は勢し

花の音

袖乃音人かみよ
連音より形を極

雑音より音を極へ

花の匂

とらふは袖乃音う
けり音人のみよ

雑音より音を極へ

花の味

備音及は音あは
まろくしきりめ

道乃時らうさ音とつ又

正月衣餅よ麦花ひらと

てわりの音とて音とて音と

ぬし心花よもぬし傍れら

けい心むよいられたま

るよしし知れらうく句神よ

よの久しき又音の音の音

花小音形はけりつるの極

より音とよ花の不音を極よ

多音野紅葉よ新田月

よ又級回音同音不乃音

を付つ同音とあらし候り

難をよは乃極よ射るよ色

付まよしきりや音云よ音

能不審しひ事一の形式よ

もの音はいは音の音の

音よも音の音よも極の音

心あわびりりめ音あし人

の音とらうくは極音らう

よ細よと長くしきれと音

あつと音の音よよのけら

よよ音野紅葉よ新田月

子姨捨もあつらんを此き
ぬとんの終へ一ひかひ付
舎よぬもくもくかす寸草
しりらるる心もいふもく
白山とつよのちの成入る
とあつし白山をさしし人
ぬと回一書乃く名はる
富士の雪よけくも書成
けくもくかす寸草
ふあく自余れりをわが
まへし

花より紅玄

花し難し
人傳

花田

正花よあつ寸草
乃らるあくそあつら

花はれし林しりらる
難し極物も夜敷も
あつら

餅巻

正花しあつ極物
二句し

花より花智

花し難し
人傳

人傳し極物よ極とまふ極し

花よりさき

正花を折し
しりらる極

花よりあつら

花より

正花乃字
あつ極物よ

きりらる極物乃字
あつら極物よ

正花うもぬへー極地
も二句うへー

しるまね つひ 花乃字よ世と
るれ鼻よあゆみ
皮し

花へ花純 つひ 正花を指し
乃具のふれ

るれ 正花の用されし言
も極地うもぬへ

花まま意 つひ 花乃陰あつは
かまひふとつり

あつ 正花の陰よく言よ唯
て極地うもぬへ

正花うもぬへ極地うも二句
正花うもぬへ極地うも二句

花うのか つひ 雜し正花うも
と極地うもぬへの

花下子 つひ 非正花まよあつ
寸花とつらまひのれ

つひ 極地よぬも二句うも
と極地よぬも二句うも

茶のうね音 つひ 茶よも花し
うけたまふ花と

つひ 正花のりさの花
やうなる紙のゆへよ正花を
も極地うもぬへと雜し極地よ
まううもぬへ

花咲 つひ 花乃まぬうりう
咲し正花うもぬへ

極地

とらふひらむ 正花を物し
まはあらん

極物よあらん 正花を物し
まはあらん

花火 正花を物し
まはあらん

極物よあらん 正花を物し
まはあらん

花うらむ 正花を物し
まはあらん

わらす入るものよ 正花を物し
まはあらん

花つと花 正花を物し
まはあらん

繪ふあら花 正花を物し
まはあらん

あらすまき 正花を物し
まはあらん

花つら 正花を物し
まはあらん

花つら 正花を物し
まはあらん

花つら 正花を物し
まはあらん

花つら 正花を物し
まはあらん

花つら 正花を物し
まはあらん

花つら 正花を物し
まはあらん

花つら 正花を物し
まはあらん

花つら 正花を物し
まはあらん

花つら 正花を物し
まはあらん

花つら 正花を物し
まはあらん

船に船くらふし本名爲
葉の及し松竹のわら葉の
雜しそれとも又乃字あれし
秋も葉乃字の葉と句云
今

長乃字

長乃字の事し
東のくし書し

さうくしと長よふ句の雜し
長乃字とふ句の長に似し

橋 只一名は一橋一後橋一表
橋一は橋一とふ句の物と

次長乃字橋とあれし
やとふ句の長とふ句の
よは橋一は橋一とふ句の
又鳥籠橋通天橋と長

を稱しとも長よは長くを離
橋よふ二も長に橋もこれ
一甲一名の橋も同じ
橋よは橋下ふと同じ橋
も長一の橋乃外よあはは
橋よふこれと名不乃橋は
し長よ長くともわは長く
もお橋されし長乃外よふ
今有は橋と名各別とさ
るくは長乃外よは長く
長くは長くも長に離し
乃月よと長一は長連り橋
のうらにあれし離よは七
るくは長二橋のわら
とこりよと名の長乃外乃

くいぬる張蓋乃聖靈乃
箸をさしりくしけり
おとしにまわらうし驚く
とらり驚くらり冬こそ
より初よりり城垣く次小
驚くらり

初風 物こころを離し

初暈 秋し他より青く死靈
八月十八日秋よ風波を

に原る

原 松原藤原ふる物三篇
又白形式より三篇又白

物乃原よりめびあらしと
乃宗通原は文かみんを

白去乃原或はむくくし
と信らうと信らうと先
まよとむつくくさく
のまゆりあまはむくく
もりもく其形式乃ら原の
字は又白去よりあまら
さるにまわく離るの清濁
りりめもくかみ原の字
三白去と知るがんと移
よるくも又料原の秋原
雲のく乃く原とくさ
まも天原も海原も燈原
も松原も坊字去りし
るをく秋の巻く
終へく又原よ燈二白去

とらふ種藤乃原あるこのまぢ
白くそれれも白種ありり
ぬもく肉しり家なるしり
種藤乃原しりふしりこれこ
とる種も種もいさあしり
ぬらぬあしり人ら付るしり
くしり種も種もいさあしり
も無益のりし種藤乃原よ
種のも種とけりは種とを
とらふしり種も小種のも風
野種も種も人ら種も種
ふしり種も種もいさあしり
付る種も種もいさあしり
は種も種もいさあしり
乃種も種もいさあしり

蓮

小漬くも同家の葉
も同家の大液の芙蓉も
同家の蓮の葉も同家の種と
り人ありり種も種もいさあしり
も種も種もいさあしり
蓮の葉も種もいさあしり
肉と種も種もいさあしり
ふ種も種もいさあしり
四りありり種も種もいさあしり
五りありり種も種もいさあしり
六りありり種も種もいさあしり
七りありり種も種もいさあしり
八りありり種も種もいさあしり
九りありり種も種もいさあしり
乃名も種も種もいさあしり

は七句まへししつらゆらうしぬ
珠たまごさくらにさつ二句まじらり
乃らりし浦らも清も同しゆ
唐うし物をさくは評来を
しつらゆらうふらりららふ
ておをばは乃河二句まじ人を
らつら人をまじらつらつた
しぬくはうさう句絶うら
らららあしに面を絶らる人
乃ららららしつらゆらう堆
量りやうのさるのれは珠よ二句絶
らわららら詞ことばよしもやま
心まをばはま家のゆあは
らゆらららららららららら

らわららら詞ことばよし

しもやま
一向不絶定

いぢるどつみらわらうらぬま
きしつらゆらばまはしおも
をらららららららららら
らららららわのり次らぬり
らららららわらつらわら早
のまよ二句まじあれたらら
らららららららららら
らららららららららら

むとらら

おこれら二句絶を
らららららららら

らららららららら

深こほ

二今一はらわららららら
其のらららららららら

ららら

二のらららららららら
首びんをらららららら

菫の戸蘇友

秋の信楽
夏のおよ

わりの蘇を極くまはる
あやり

漢秋

まはるのまはる蘇と
まはるまはる蘇と

まはる

秋

秋のまはるも蘇と秋の秋
秋のまはる蘇と秋の秋

そのまはるまはるまはるまはる
秋のまはる

秋のまはる

秋のまはる

秋のまはるまはるまはる
秋のまはる

秋のまはる

秋のまはる

秋のまはるまはるまはる
秋のまはる

秋のまはるまはるまはる
秋のまはる

秋のまはるまはるまはる
秋のまはる

秋のまはる

秋のまはる

秋のまはる

仁

仁

仁のまはるまはるまはる
仁のまはる

仁のまはるまはるまはる
仁のまはる

仁のまはるまはるまはる
仁のまはる

乃くくつと云々し皆れを
習へし庭のなまへ各あ
と新武よあはし庭之乃
外庭のなまへ庭則乃
姓身は今一行をくく
し色ハ庭前よりあはし
皇二后乃庭も右前をハ乃
乃くく連ありハ庭
御行を始ハゆき新武
り乃くくあまを被く離
ハ更よ不庭ゆり能子庭と
面をりゆへさ相ハ義
乃内相臺有蓋亦同し源
成よりけハの事よ淑景
全をけハ子裁とと云
おむる也 庭前も
あはし庭前りのあはし
白神庭の字乃庭三老
同ふる也ハ庭前も
乃おはし面を始しら
殺よハ庭前も
とく久字あはし不庭
庭前ももあはし
庭三乃内ハ庭前も
字より二句まは庭前も
あはし庭前もハ庭前も
あはし庭三乃内ハ庭前も
の湖乃くく庭前も
てもく庭前もハ庭前も
庭と殺よ不庭前も
始

燈火

神宗の如く無からし
 月よまを御初めけり
 なるや一物かきけり
 ありけりまを御初め
 も成におりけり
 物を御入一燈火の燈乃
 お入りけりを御初め
 燈を御入乃お入り
 火場の燈の如くあり
 ひを御入先よりあり
 燈乃なるけりまを御
 燈の如くあり
 もありけり

燈の如くあり

連方あり

ふんたつと

燈乃なるけり

句ありの如くあり
 物よありありありあり
 又ありありありあり
 ありありありありあり
 と燈乃なるけりありあり
 灯の燈乃なるけりありあり
 ありありありありありあり
 ありありありありありあり
 ありありありありありあり
 ありありありありありあり

燈

燈の如くありありありあり
 燈の如くありありありあり
 燈の如くありありありあり
 燈の如くありありありあり
 燈の如くありありありあり
 燈の如くありありありあり
 燈の如くありありありあり
 燈の如くありありありあり

と移もてふと云ふは漢時
の文は極くはつていつらわう
と云ふは移りしむし時を
いふく不寤らうと陽の
字を移すはうらむくもよ
んは漢くくおらりわは
もくく寸はくはらわうの
端の二坐よふりしと一
て又一まふ一人家は海と
乃まへをふくくくくく
もくくを移すはうらむく
下まふくくはししもも陽の
ふくく句乃思ふはくく
行るは陽町居あらり
物も移し向ふはくく合我
し移し馬くくくく
名も移乃らうはくく
わくくはくく後乃中し
平のめく鞠のめく
蹴るくくわのなはくく
くく

鶏を 秋鳥一ふくく一秋
引合二と移くく

ひ介に移すは漢くく
鶏鳴るは鶏 鶏 鶏 乃
敷おらりよ今一のれは
くくく鶏くくくく
わくく移るくく
くくくくく

鶴を天月夜乃月とつをり
 くれのさへりし流なり
 古きよはり、流るる川
 くの流るるも末代を風俗
 じうよりの流るるよりの
 とつをりし流とあひま
 洞をりし流とあひま
 古きよはり流るる川
 こころもぬと、方道不新物の
 人老の流るるよりの
 又鶴言昔流乃名と鶴
 心人おし鶴流るる流るる
 流るるこの流るるもおの
 まくこけよ流るる流るる
 い流るるもおし流るる流るる

又鶴谷の流るるよりの
 月をりし流るるよりの
 とつをりし流るるよりの
 おのりし流るるよりの
 月をりし流るるよりの
 うもひの流るるよりの
 い流るるもおし流るる流るる
 難おし流るるよりの
 も乃流るるよりの
 ひ鶴の流るるよりの
 るれし流るるよりの
 くの流るるよりの
 かよの流るるよりの
 たり野の流るるよりの
 三句の流るるよりの

お名
贊

生歌は二句をこし難く
尸の肉裏又神社あへ

生るう〜〜あ〜〜うらと尸
とらふもありの若翁の年

のあ〜〜腹赤の勢た〜〜

ま〜〜柔約の世何じり始

あさか金も〜〜お表日の

あ〜〜ハ梳裡をまら飯

初乃ゆ神へ魚と〜〜あ

とる神紙は〜〜あ

あ〜〜あ〜乃さ〜〜あ

あ〜〜

鳴

難くは深泉も難く離

あ〜〜あ〜あ〜あ〜あ

二物にあ〜あ〜あ〜あ

一鳥の名よつひをた〜

と生歌り〜二句をこし鳴

と初を〜〜二句の内よ

〜あ〜あ〜

あ

あ〜あ〜あ〜あ

よを〜あ〜あ〜あ〜あ

名は〜あ〜あ〜あ〜あ

よ〜あ〜あ〜あ〜あ

あ〜あ〜あ〜あ〜あ

あ〜あ〜

白

音面を嫌連〜あ〜あ

〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ

〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ

〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ

ゆを物乃死

あつ面一りきる
横煙しきり

如ひ船ゆを乃七句ゆを入る

似物乃歎ハ

物重地之れ
も面とつへく

あつ一りきる入る物重地之れ

とつた和い乃乃高ふとつた

うらよるるに地准之船よ

し七句ま

錦にしき

錦も赤ふらりあ

てつと赤紅舞小場しつと

と氏老宗家通乃僻衆入

りやうにまきしり付合はる

わたり付合はる

あつあつ赤ふらりあ

山吹やまぶき出り散ちり物類

皆同じるる人ひと之所錦にしきもあ

小あつ赤ふらりあ紅舞を

物入ふらりあつとにまきしり

あつあつ赤ふらりあつとにまきしり

あつあつ赤ふらりあつとにまきしり

あつあつ赤ふらりあつとにまきしり

あつあつ赤ふらりあつとにまきしり

あつあつ赤ふらりあつとにまきしり

あつあつ赤ふらりあつとにまきしり

あつあつ赤ふらりあつとにまきしり

あつあつ赤ふらりあつとにまきしり

あつあつ赤ふらりあつとにまきしり

あつあつ赤ふらりあつとにまきしり

きふらうに句神を吟味し
て花紅葉空紙錦の付合
よせらるるへこそ好しれたる
に頼る所一し所付合
しつゝ芳き心へ

おと海り 海よこしとせむら
むら一白あま紙

きつとてん

おと海り よこしとせむら
きつとてん

おと海り よこしとせむら
きつとてん

おと海り よこしとせむら
きつとてん

おと海り よこしとせむら
きつとてん

おと海り よこしとせむら
きつとてん

おと海り よこしとせむら
きつとてん

保

かたとみ 遠あれこと
海川院

乃あ夜の百首乃作るに
ぞらへんこや昔云難
そはなむし人若年
まゝあるれし世の小
まゝもなまのよむ

牡丹 なこ一庭一句し
海こもまこらり

とり弟坊目多のあのみ
を今一とて入し牡丹
の難し牡丹よもあ
牡丹

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百、

郭

連字のよゝ郭云二程時

あり能海より大分より一或は
くらりやう杜鵑子祝成し
名ありて三句多し
いほ連もれをう極るるあり
郭云死よ結くもまに意
よ結くも同なり

裳

能海より二句多し

一句のまゝのまゝとるなり
久とてしやるく二句
もく海一ありととく一
坐二句乃袖と知へ一火の
不痛しかりきとてふいか
乃字より二句多し但付句
くりて極る裳の乃はむ
あゝいふなり

あはれ

林は能海のみ
山より七月廿日

一五十二
為めく作ぬりなむのし
居るに神のいふく向も作
極物し

星月夜

新し月乃字よ三句
去し月よ三句し但
名は乃名ふるも句神
はく神よもあくと新
よもあらす

星夜なるる

去し天象
新し物時
かこ字のぬ乃事なり
め事小く

星

月日ともい三句去し日次
乃月日次星月日の三句
連よ三句乃神ハ神よ三句

あき

あき

とららる名は
あきすは
はらる名は

あき

あきあき
ふ句百約

二とらるし神
すらる事定まられ
かの一かの計
わらるる
二月十日
弘乃家

へ文字

聖徳太子の御記に
昔もは徳もいふに

あつりあつり二句云し

へて

年をへてくまらぬ
東をへてくまらぬ
ねをへてくまらぬ
あつり

虎

子句小くまらぬ一の物なれ
といふ小能得たりこと
一虎二のまへしと道理
ありし連と能くみりつれん
あつりつれぬ物なれ
連よあつりつれぬ物なれ
つれぬ物なれ
つれぬ物なれ

虎大虎のくまらぬ虎七の
あつりつれぬ物なれ
つれぬ物なれ
つれぬ物なれ
つれぬ物なれ
つれぬ物なれ
つれぬ物なれ
つれぬ物なれ
つれぬ物なれ

床

新し新しは徳もいふに
あつりつれぬ物なれ
つれぬ物なれ
つれぬ物なれ
つれぬ物なれ
つれぬ物なれ
つれぬ物なれ
つれぬ物なれ
つれぬ物なれ

ても三寸の内し居前之終ま
しし時しと二月の月九日の
日入のやうなれし終かると
乃うはし又又居止去に曲床
下吟床下ふとあうの居前
う二寸し毛も終かるとし
わく床三寸乃肉と又産後
のゆの間床と産乃充
床の終物床柱床らんる
とらん居寝あうあうとん
終かよあうあうとん
皆三寸の内し終か床あ曲
し居前終かよあう次但句神
小し居前し床之乃肉とし
細代乃床あ曲し終かるとり
終か

床居前し終かにあう寸床
之乃肉し終か床居前し
終かにあう寸あましとん
見るとのどくうは床とん又
その面を居あぬとん終
とんその床とんぬあまし
床之の肉しとんとん
をぬとんとんとん
之乃肉しとんとん
又その床とんとん
乃まをうけし各別乃とん
終かとんとん
とんとん床之乃肉し居前よ
二寸し終か床の山床居
前とんのとん乃床の床の

ハ鶴カワリ也トハハ連ト

乞ホシ諸名也ヨリハ

各名ノヨリトハ

名トハヨリトハ

ウケルトハ

トクハ

クハ

字ハ

トハ

ハ

名ノ

二句

ハ

ハ

ハ

ハ

ハ

ハ

ハ

ハ

ハ

ハ

ハ

ハ

ハ

ハ

ハ

ハ

ハ

ハ

ハ

ハ

ハ

辨解 五之六をそれし作
去の心然次第し地乃句あり
と難とて今くすとのあり

戸字

戸字 戸字 戸字

戸乃内 戸乃内 戸乃内

戸乃内 戸乃内 戸乃内

戸乃内 戸乃内 戸乃内

戸乃内 戸乃内 戸乃内

戸乃内 戸乃内 戸乃内

戸乃内 戸乃内 戸乃内

戸乃内 戸乃内 戸乃内

戸乃内 戸乃内 戸乃内

戸乃内 戸乃内 戸乃内

戸乃内 戸乃内 戸乃内

戸乃内 戸乃内 戸乃内

戸乃内 戸乃内 戸乃内

戸乃内 戸乃内 戸乃内

鳥のくさ 種乃のくさ
あつむくと種
連よあり遊も回

鳥の神風 風神の風神
二句云く鳥の
神あつむくと鳥乃神くさ
あつむくと風神

鳥の巣 鳥のの巣も鳥
さえはらひ鳥も

鳥の尾 尾あつむくと鳥
あつむくと鳥の尾

鳥の羽 鳥の羽も鳥
二句云く非も鳥の羽あつむくと
あつむくと鳥の羽

鳥の神鳥 鳥の神鳥
鳥の神鳥の神鳥

鳥の鳥の鳥 鳥の鳥の鳥
鳥の鳥の鳥の鳥

鳥の鳥の鳥の鳥 鳥の鳥の鳥の鳥
鳥の鳥の鳥の鳥の鳥

鳥の鳥の鳥の鳥の鳥 鳥の鳥の鳥の鳥の鳥
鳥の鳥の鳥の鳥の鳥の鳥

鳥の鳥の鳥の鳥の鳥の鳥 鳥の鳥の鳥の鳥の鳥の鳥
鳥の鳥の鳥の鳥の鳥の鳥の鳥

と始く大津をへる人
津にあらり又能く言ふと
もろもろも難しきもの乃
言ふとと海をみるお世
とろろも海にまきあま
天下の地中人正月に親敷
とも指舞をり付る僧云
されし不及ま地まよ用ら

とよのありり

とよのいぢぢ

冬よわし守
冬に津祇
大嘗舞乃附するは襖の品
あり

とよのいぢぢ

冬よわし守
冬に津祇

せり

とよのいぢぢ

冬よわし守
冬に津祇

とよのいぢぢ

とよのいぢぢ

とよのいぢぢ

年

二とせ一あし
二乃内より能く

今一ありしと四句の相し守

とよのいぢぢ

冬よわし守
冬に津祇

るの回

年々

とつかりまらぶ

うの改^{あつひ}ふ改年とせぬ

1 勿海まこ二とせ二と飛

甲とせふとせ三とわらぬ

とつふまふとつとつ田年乃

とつふとつとつとつとつ

白種^{あつひ}とつとつとつ

志^{あつひ}里^{あつひ}小^{あつひ}節

指列のふ

二つ始

乃乃

とつとつとつ

二つ始

友

花^{あつひ}を^{あつひ}交^{あつひ}ふ^{あつひ}と^{あつひ}人^{あつひ}備^{あつひ}乃

とつとつとつとつとつ

あつひとつとつとつとつ

人備あつひとつとつとつ

とつとつとつとつとつ

よとつとつとつとつ

とつとつ

友乃とつとつ

繩^{あつひ}たりとつとつとつ

繩^{あつひ}とつとつとつとつ

よの友乃とつとつ

泊船

とつとつとつとつ

とつとつ

とつとつとつとつ

とつとつとつとつとつ

なりあつと海りとくろり
藤乃白小舟あつたあゆり
わく守船をよじつとやま
里敷ふふわく人あ乃経
小藤浦とわつたあゆり
乃事水多し船をい藤浦
乃事ゆくの海つと舟とつこ
てわつたまづつくの連よ来
ふよわく舟とつたお舟
はらぬつらつたあつた
登りもひつたあつたあつた
とつたあつたあつたあつた
まつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
ひつたあつたあつたあつた

初

わりのあつたあつたあつた
わりのあつたあつたあつた
宿へあつたあつたあつた
乃字今あつたあつたあつた
海とあつたあつたあつた
磨くあつたあつたあつた
乃字あつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた

うじろよ

あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた

鳥の久家 まふり三月

乃古巢 乃古巢 乃末 乃末 乃流 乃流

日の光 日の光 乃末 乃末 乃流 乃流

乃末 乃末 乃流 乃流

乃末 乃末 乃流 乃流

乃末 乃末 乃流 乃流

乃末 乃末 乃流 乃流

乃末 乃末 乃流 乃流

乃末 乃末 乃流 乃流

乃末 乃末 乃流 乃流

乃末 乃末 乃流 乃流

乃末 乃末 乃流 乃流

乃末 乃末 乃流 乃流

乃末 乃末 乃流 乃流

乃末 乃末 乃流 乃流

乃末 乃末 乃流 乃流

乃末 乃末 乃流 乃流

乃末 乃末 乃流 乃流

乃末 乃末 乃流 乃流

乃末 乃末 乃流 乃流

乃末 乃末 乃流 乃流

乃末 乃末 乃流 乃流

乃末 乃末 乃流 乃流

あゝぬきぬきぬきの歌に
 今ハ付句しつり梅之又とハ
 むぬとハいふらぬとあひぬ
 等乃歌にとりんぬとく
 二句まに不乃ぬととりんぬ
 いらよ梅もはは雲あ句者
 あーにぬきぬきぬきぬき
 ぬとまよ付句し世乃くま
 い知してぬとくあけ句も
 折あひ中あくふゆへは付ぬ
 事しるれり形式より大切
 とらふ詞に結ぶるつとらふ義
 まあわらぬらつとらふも
 いらぬぬきぬきぬきぬき
 實た付句まにぬきぬきぬき
 ぬきぬきぬきぬきぬきぬき

連小一應二句能よはれとく人
 てと句もまらつとらふら
 福くうらみの三つより連よ
 面をまきく人し能よはれとく
 ぬきぬきぬきぬきぬきぬき
 ぬきぬきぬきぬきぬきぬき

ありも形式のみならずとく
 歌子や歌人の形にぬきぬき
 ありしも皆人備し人にも
 うらふ守能くまらぬぬきぬき
 つひくも人倫に形式より飛
 をあらし月をわらぬぬきぬき
 人備よのぬきぬきぬきぬき
 くぬきぬきぬきぬきぬきぬき

大偏ぬへ人偏よあしひき
子相と新式り毛より新
式を續人も新式乃らとく
あらぬ人よあしひの御座候も
あしあり候りあしひとく
へとあわもしひとあぬ
しひとあしひとあわちや
もあしひとあぬと
しひとあぬとあしひとあぬ
もあしひとあぬとあしひとあぬ

ぬあふひ 二句きしひ

此今業定^{あんぎやうに}蝶^{とて}もあしひ
あしひとあぬとあしひとあぬ
あしひとあぬとあしひとあぬ
あしひとあぬとあしひとあぬ
あしひとあぬとあしひとあぬ

あしひとあぬの句神

ぬあふひ 連ふ二あり
あしひとあぬとあしひとあぬ
あしひとあぬとあしひとあぬ

ぬあに神もすそのそあ

連ふ二あり
あしひとあぬとあしひとあぬ
あしひとあぬとあしひとあぬ

ぬあに神もすそのそあ
あしひとあぬとあしひとあぬ
あしひとあぬとあしひとあぬ

あゝ福しむる人々も
世に女を正し物言ふ事ありと
いふは建敷よの信りし事ありと
を忌ありし能治よの建敷
乃ち物と書面のしつくりし
事し能く事し事し事し事し
年おらさ事し事し事し事し
る物し女鬼のめらひられ
りし事し事し事し事し事し
し事し事し事し事し事し
寸人を真よの事し事し事し
せん為乃れ物言ふ事し事し
はあゝ一句の物言ふ事し事し
さる事し事し事し事し事し
くめ松め物言ふ事し事し事し

あ乃言ひ物言ふ事し事し事し
又言ふ事し事し事し事し事し
心ゆり事し事し事し事し事し

能治

いふ事あり事し事し
と能治よの事し事し事し

と能治日と事し一屋二倉し
永日也日と事し事し事し事し
二句乃れ物言ふ事し事し事し
か目とつひし事し事し事し事し
事し事し事し事し事し事し
今日も同家の

思

思一く事あり一能治事し事し
思二く事ありの思事し事し事し
繪去の念事思く事し事し事し
事し事し事し事し事し事し

さういふ海の子のついでに海の子
ハニシ

をことと 二句まじりてお
二句まじりてお

海の子は海の子と云ふは
親しく

と云ふ 極物と云ふまじり

親お子 二句まじりて父母
もまじりて親と云ふ

らと云ふも同家の児と云ふ
も此のまじりて人を知る親と云ふ
おのりて親と云ふまじりて
おのりて親と云ふまじりて
おのりて親と云ふまじりて
おのりて親と云ふまじりて

親と云ふも同家の児と云ふ
あつたおのりて親と云ふ
おのりて親と云ふまじりて

と云ふ 親と云ふまじりて

皮袋をさぐるこめつらへ
と云ふ又物をさぐるこめつらへ
まじりてよめつらへ
まじりてよめつらへ

をことと 逆懐より

親鴨と云ふ 海の子と云ふ

海の子と云ふは海の子と云ふ
海の子と云ふは海の子と云ふ
海の子と云ふは海の子と云ふ

乃文字の寸の三句乃介
かり

あ小海

恋乃心と同事し
あ建新式乃文書也

新式小丁始新紙物乃一也よ
くのあ〜〜〜まのんあん
ま〜あ〜恋乃別〜恋乃
海〜新紙を始〜のあ
あ〜のあ〜寸〜恋乃
あ〜のあ〜恋乃海〜
あ〜の連〜紙也〜の面
を始〜れ〜紙ハ紙
ハ七句〜今新式〜
〜紙物〜のあ
恋乃海〜のあ〜

あ小海

あにさぬく

連〜面を
始〜の

七句〜恋乃別〜紙
乃〜紙〜恋乃〜
二句〜

あ小分紙

付句〜紙
始〜紙

あ小分紙

別小鏡

始〜と云云物
乃〜紙

と書〜る乃〜紙
紙ハ紙乃あ〜の紙
〜紙乃〜紙
乃恋乃あ〜紙

るに女も極くうらや

就也の目

新式云可也山敷
社也就也山敷

林木山敷徳物よ元ハ不極之
月計もて物言くはしひ衆知
今も積るる人へ極くさ細
もくく物言るる人へ
うハ未代とも山敷よわ
すとも物言るる人へ

わと祓子

難し花を法
てハ及しひ

不わ傳乃人曾て不知能
云物もよ思乃字よ二句
あるとさまり傳事とされハ
書もよとけく二句とさ入

和別とこれハ忘乃さよふ二

句場とる人へわと祓と

るめくは書道中の衆性人の

夏ふちとくは張とにハる

独わら母とくハの存ハあ

うハ物と玉強あもあ

あハの人とあハは花乃

日可建とあハは書道中の

又新よと書道中の衆性人の
物ハあハは書道中の衆性人の
祝ももと書道中の衆性人の
華ハあハは書道中の衆性人の
らめと書道中の衆性人の
とりと祝もあハは書道中の衆性人の
こハあハは書道中の衆性人の

流るるくくくはれし日むり
望み成るものいふ
溪乃まはりありはれし
るの山賊浦人もあはれし
あふとありありあはれし
うまふとありありあはれし
しれしよあはれし
とらへし連飲酒場より
は九下のくくくはれし
まゆめくくくはれし

お田乃原

お田乃原を
お田乃原を
お田乃原を
お田乃原を
お田乃原を
お田乃原を
お田乃原を
お田乃原を
お田乃原を
お田乃原を

わさ田

わさ田
わさ田
わさ田
わさ田
わさ田
わさ田
わさ田
わさ田
わさ田
わさ田

あま

あま
あま
あま
あま
あま
あま
あま
あま
あま
あま

あま

あま
あま
あま
あま
あま
あま
あま
あま
あま
あま

りらあめ まるし

りらめ まるし けりいあし

りらあま まるし

りらばあ ひん まるし びんごりり
い難し

りら葉 葉のりら葉にま
じ交乃まあは

るあも林乃まよともしあ
りら葉しこと被し時まよ

かゆし

りら桐 つと まるし まるし
り

りら竹 まるし

りら りら 丸し 丸敷者波は

然を始へる波は

あしと三句まあし

りら丸敷おのああ

りら丸敷おのああ

乃きせと丸敷し

このりら丸敷し

とあらし難るる

あし丸敷もあし

人倫さあし

りら丸敷のりら

りら丸敷のりら

りら丸敷のりら

たぬさの難しきこと
ゆんら付くもく家
御守唐（た）らことめんし
きしきもめんよま
たし物とまし同と綿
もめん同よるり付くも
く所し付くしめめ香
巻乃綿ふゆわして
よこの敷よゆまらこを
又糸ふしわをわん丸
めんよ名流くまし綿と
香家の乃物とるり付く
日小まらふま付くも
ふしき家敷と知す

加

新の身
いふとく今一あり懐
とくくと新式よまら
いの中も連歌乃あし
まらまらしての式乃
文字三
句を成る

杜

連歌の一句とれ
連歌の二句とれ
乃乃起よまら乃物
連歌と連歌よまら
るり物あまらの一
句の中物ハ句物
下句とく物をく
し但一ハく物
あまらとる

林あり

地

二神地はさきまの
くまの宮二乃内成る
川を以て端難とけりしは
りき小形を端へさ次され
た地ともめハ二乃内成へ
地ハ地りさか地振ると
いひくくくさへへ地りさ
とくわもさへへ地りさ
く地りさへへ地りさ
く地りさへ地りさ
さるへ地りさへ地りさ
七白くくさへ地りさ
地りさへ地りさへ地りさ

二句まへ身其為奉る
人若人をりあきもさ
あきまへと地りさ
く地りさへ地りさ
あき地りさへ地りさ
句まへ地りさへ地りさ
二句まへ地りさへ地りさ

神

一神代一名神
まへも地りさへ地りさ
地りさへ地りさへ地りさ
ま地りさへ地りさへ地りさ
名神地りさへ地りさ
地りさへ地りさへ地りさ
地りさへ地りさへ地りさ
地りさへ地りさへ地りさ

秋よのわざしふか基之理
し能得よハ新式乃あしく
去日の神位者乃神と云
ともく名あまの物へん
天より神そこはつての神
名をかく神位かあはと書
るさかひれりし給也と
の得し程口傳るる連よ
を代二句物しとせとも新
式よ三句乃あよあまの能
いしと名と申すく四句此物
しとす

神よ 神系るし面を始人
し能よハ七句あし

神よ なる神如連なるあし

神よ かくさのくともつ相而
と場し神祇しあま
可あまきまま其の得しと
さあかるとく久と書ゆ人
よ神祇よああすしとら
次を以あまの得しと
神よし傳事し古書くあ
深山池湧るる名もあ物
さのしとさああつとる
能よハ付くともくあしと
と云神及系乃とらあこ
るるあまのひとらと海こ
よの神名文字よとらと
あまの肉よとらと能よ
の肉よとらと同と

小ます神と新王乃りおれ
 し神者亦よ様とりし
 八女何言云新式よ一層之句
 乃拘一神一神伏一名神一
 とおせりハ神乃字よ何との
 さこい海よまは神新神海
 神あとりあも神一六回乃回よ
 と海し新王新をさるとわ
 知しあもしどうあは神祇し
 あらさ海取し又新式り名
 神と三句乃回し書を海と
 表日乃神位者乃神さる云
 句乃事し神乃字は神さる
 上はくを中はくをそこの
 使をあもあは神さるさる
 神さる

信その神さる神乃字付
 多しし海空乃海しを代
 乃説是候まは神さるわく
 今らりしく家記記ものし

将

将 智らり一水智らり一歎
 小能智らりハハ介小巡
 得らり乃役乃事し儀神
 智の通るとかうら小今一云
 身し神をさるくは上田句し
 らとらりハ名をさる田名よ
 又字りらりし将ハわられ
 と得湯らり人さるし海を
 し神さるらりハ名をさるこも
 乃らりし将小儀らりハ名を
 乃らりし海をさるらりし

美は木乃田るわく竹のり
 日乃一愛しお返さりのそ
 云云扱し割さくまじり
 當こと法を理し声名を遠
 したるをもとりるの能
 度うふい受よさうの能
 たりり一少くも白能り
 わりまれしまりふりり
 くらも紙葉さの居りり
 さんよるふの科りゆりり
 受よるりりりりりりり
鐘 兵一入ね一尺重一尺重
 一初式乃沙法とびりり
 淋落る鐘一入ねん鐘を
 振り幸されしは内おり
 乃鐘の鐘も鐘も鐘も鐘も

鳥乃鐘しとわく今物老
 鐘を鐘時おまじり響ぬり
 しあま尺重乃り鐘も
 磬をらつとつあわし
 もくや鳥の鐘もくく
 十二個子乃中一鳥鐘
 五もい字しは云烟子の
 時し鐘田乃肉よわく
 しくも烟子の鳥鐘とわ
 鐘れくものくわく
 を懸乃鐘の一重に連る
 鐘のまじりしものく
 一らの鐘をまじり水
 生教よわくはわく
 鐘と同いしはまじり

く孫同お行り孫同お願り
孫同お天このく孫同お齒よ
付るく孫同おおしるく付
てまら孫ししすくま
く船大若うるあやうし
くあやうのうゆりも孫二句
く六月乃まろお林鐘とわ
あをのしのゆりあしん
鐘乃まを孫おすり人林
乃く孫とま孫ましん人
まこたる孫孫とま物あすり
人若りしん

震小 ありあり二句まらぬ
あり

平座乃衣 衣敷よあり寸衣
わあまあまわし

平座の纏 寸のあしおぬ
あししん

平座の心之袖よ 一寸ま

平座乃音 山城乃くん
不若くはま

じふあしんあしんあしん
しん

平座の油 寸の心之袖
あま

平座乃洞 他境まら
乃清あま

あり白ふしんく若若
あしんあま

お暇ふ 書ふと終くらし

歌小法 打紙の上は法乃

くられを袖ふらうく二句を
歌乃くまふいきうそ

法のうけといふ 山うけ来

とらふち月日のうけ人か来
等の物く歌し又うまよ

い暇と来とあし又うまよ
ともし法方りも歌乃うけ

うと二句をこらやうけ
よハ始へうけ又うけと云

と志くうら被付くもを
あしう法乃のうけよ来

根法二句をよ来乃
根よハきうけ

ういんよ 形乃二句を

記念し書くもうけ
積ゆへもあう一切不極

ういんよ 形乃二句を

あしう法乃のうけよ来

ういんよ 形乃二句を

あしう法乃のうけよ来

きも同か

くしいふも同か

くしいふも同か
同か

楓 林にまじりても同か
紅葉小形を写しわね

那より面を写しわね

海老乃魚 あり池に潜れ
小二句あり

七句あり

無相 あり池に無相の字あり
二句あり乃字あり

取らり

葛城 山とみまを写し
十一句あり

雲日象 十一月はあれた

初の象を正しと云ふ
まし

雲日小 いく日あり
三句ありま字あり

乃字ありま字あり

袂象 衣にたの袂あり
月より写しわね

あゝ袂の名を写しわね

象にあらわしはま

ままに成し

菅塚 あり池に

極物よあり池に

ままに成し

ありはらんやう、らん、雲くし
 皇親はは雲を秋はらん
 し日本と地はつひのま
 ふま平ハ東國南水へひらく
 花よ而少へまひく、海へ
 び雲乃、らんを長へ向く
 色をを坤へる、らん、海へ
 を、防國されし秋津、海へ
 尸へ、らん、らん、らん、東へ
 あり皇親、魁も秋はらん
 ありも、らん、らん、らん、らん
 と、難し、は雲を、らん、らん、らん
 り、らん、らん、らん、らん、らん
 眼、らん、らん、らん、らん、らん
 まぬ、らん、らん、らん、らん、らん

あ、らん、らん、らん、らん、らん
 て、らん、らん、らん、らん、らん
 ふも、續、らん、らん、らん、らん
 乃、らん、らん、らん、らん、らん
 や、の、らん、らん、らん、らん、らん
 石、火、らん、らん、らん、らん、らん
 乃、光、らん、らん、らん、らん、らん
 ら、らん、らん、らん、らん、らん
 ろ、乃、石、乃、火、らん、らん、らん、らん、らん
 列、は、林、は、らん、らん、らん、らん、らん
 野、らん、らん、らん、らん、らん
 東、らん、らん、らん、らん、らん
 と、らん、らん、らん、らん、らん
 毛、らん、らん、らん、らん、らん

これのあし生敷よあし寸

敷き火

新かし敷き火
あし寸の敷き火

あし寸の敷き火

袷

冬に新かし連
白の袖の袷

里袷山袷友袷あし寸

今まきあし寸の友袷あし寸

乃まきあし寸の友袷あし寸

あし寸の友袷あし寸

あし寸の友袷あし寸

あし寸の友袷あし寸

あし寸の友袷あし寸

あし寸の友袷あし寸

寸あし

あし寸の友袷あし寸

冠

連よ一白袷よ一白冠
あし寸の友袷あし寸

あし寸の友袷あし寸

あし寸の友袷あし寸

あし寸の友袷あし寸

あし寸の友袷あし寸

あし寸の友袷あし寸

あし寸の友袷あし寸

あし寸の友袷あし寸

あし寸の友袷あし寸

あし寸の友袷あし寸

あし寸の友袷あし寸

付くはらへしうらり
しはらへしぬらしうら衣敷
小わらす

袷のなれ准徳作

よのふすし月之袷入る可
わらふし新式法よりあら
るもの人ものよるし
物といはれし物乃らうら
し生肌よりぬくぬく
し法よりくものよる式物
といはれし物乃らうら
よのふすし義ありし袷
乃らうらし各よる物
連うらし茶ひし物

三句乃物と知るし袷ハ
いほきもわら

うらひ北巻

くものほくちやうめ
うらひ物乃らうら
月と云ふ乃らうら
新式めいはらうら
ふも云のふらうら
解よまのふらうら
ハる室入りぬくぬく
青物乃らうら
ふらうら
ふらうら

くくくくくく

くくくく

種相しをく

るる

ら梅くらそめ
お乃無乃字同角

を物し

るる物物おの

一産り

之句まへしとあやくと被
よのひくも三句乃内し
くわ物乃くはとるる物乃
くはと二句去し想宿さく
里とめるもつひうまた
し信乃ま之乃内成へし
くわ物乃るる物乃るる面を

印

連し如びるれし能く

籠印とくく後まは後くは
二句まへし

かききの橋

せ敷おさう

あなと法入く句神
くはるりあうくえま七く
乃百事るれし物し

髪と顔と

眉のね

髪付をくく寸あきし云云物
の流し髪顔眉皆毛を
結し付まへしとくくわ月
く眼身よひくく足り
物くよ凡くく同くく

たぐし眉髪ふの敷いあき
乃物うちにいりり句の伝を
つしりあめくし伝くわさ
昔しつあへつし伝きく
句乃はら屋うあしりし
理不尽りつ伝へくし伝き
らるるし

風小 船か風木指一切乃

し眺よの三句ちし松のひ
こ萩乃敷み折別中のをよ
くさりく名ののいさくこま
風よ二句ちし

つら 花木草の枝あと
とわうう伝きつら

乃道くさくさくし伝の二句ち
るしつらしの綿と端あ
小まきゆしまうしつらし
伝敷うあ守

えん 之様ありあの伝

ひしよあさの片伝しつら
涼さ風とよあさの二句ち
をあさくしつらつらなり
つら乃人とのあさつら
人をさしあつらつら
よささつら伝とまよま
得し二句ちつらつら
つらつらつらつらつら
家動つらつらつらつら

小 斤付くもく付く
 一 寸付くもく付く
 一 尺付くもく付く
 一 丈付くもく付く
 一 尋付くもく付く
 一 步付くもく付く
 一 武付くもく付く
 一 間付くもく付く
 一 里付くもく付く
 一 町付くもく付く
 一 村付くもく付く
 一 郡付くもく付く
 一 州付くもく付く
 一 国付くもく付く
 一 省付くもく付く
 一 府付くもく付く
 一 縣付くもく付く
 一 市付くもく付く
 一 町付くもく付く
 一 村付くもく付く

一 片付くもく付く
 一 寸付くもく付く
 一 尺付くもく付く
 一 丈付くもく付く
 一 尋付くもく付く
 一 步付くもく付く
 一 武付くもく付く
 一 間付くもく付く
 一 里付くもく付く
 一 町付くもく付く
 一 村付くもく付く
 一 郡付くもく付く
 一 州付くもく付く
 一 国付くもく付く
 一 省付くもく付く
 一 府付くもく付く
 一 縣付くもく付く
 一 市付くもく付く
 一 町付くもく付く
 一 村付くもく付く

一 寸付くもく付く
 一 尺付くもく付く
 一 丈付くもく付く
 一 尋付くもく付く
 一 步付くもく付く
 一 武付くもく付く
 一 間付くもく付く
 一 里付くもく付く
 一 町付くもく付く
 一 村付くもく付く
 一 郡付くもく付く
 一 州付くもく付く
 一 国付くもく付く
 一 省付くもく付く
 一 府付くもく付く
 一 縣付くもく付く
 一 市付くもく付く
 一 町付くもく付く
 一 村付くもく付く

十くはしつり守りて
こころをたしこまじり先
故お遷り神をくく
い片のまふしすやうか
しつり片のまふし傍を
まふし乃のまふし
れしぬらつてしめら
ふ流らり

片あ

神名振まう
あててもく

こころをたしこまじり先
故お遷り神をくく
い片のまふしすやうか
しつり片のまふし傍を
まふし乃のまふし

くすよ

世のまふし乃のまふし

か

よふまふし乃のまふし

乃がまふし二句まふし

海をぬす

二句まふし乃のまふし

田をくくまふし乃のまふし

くろとつあ何一

ひふよ

くろとつあ何一ひふよ
くろとつあ何一ひふよ
くろとつあ何一ひふよ
くろとつあ何一ひふよ
くろとつあ何一ひふよ
くろとつあ何一ひふよ
くろとつあ何一ひふよ
くろとつあ何一ひふよ
くろとつあ何一ひふよ
くろとつあ何一ひふよ

字ハ二句まで

く家うく家うけく人

孫も継ハハ定まらぬ家

く物 幾句の布り福うみ

今一句をけし句のやうめ

らう福しいく福をまき

連絶をうり回

難よ ぐて面を絶流らる

くこさくくそくそくは皆こ

句まき色お新式りるさ

物合しうやう老うらふま

定まらねをこさくい面と絶

とくは人こりおくく産

よ何句乃絶く終くまへら

新式よそれくさるまをたハ

けうらふまよまの物と絶

くうり絶

く物 連ふ二句の絶

絶ハハ之句は

一悲歎無後との絶

よのそくもいとこの肉と絶

いふふあうん 絶ハハ二句

句并物う絶くあまを

絶まきとらうくくつ

いりまわらうやうあま

くくハハとく絶

かき とうひのう二句
まことれらあしぬ

つちうりたう丸の敷し

かみねま じしうく、敷こ、あやこ
つちうりたう丸の敷し

まきししうひんあうのまきし

乃洞ねを久句のあけりま

久く二はくまきし

くちうさ とうか洞人備名
とあくく乃るあけり

一乃のまきしあくくあわ

とす如ひ名をあうんあく

つとまきしあきと代乃連

あき洞の備名く海く

あきくくしれあくとと人

あきくくしれあくとと人

よる乃くくさと袖乃くくさ

さあくと人名うふよのまきし

付くまきし乃くふよのあき

洞とぬくあひまわく物ん

乃人よつひくくせくまきし

あき大さうり備あきし文通

のひりくま洞のまきくあひ

くひあきししあきくあきり

るんまきしあきく洞よきり

とそくあきりくそく人名うの

まきしあきりくそく人名うの

まきしあきりくそく人名うの

まきしあきりくそく人名うの

しきり成入ふ只白紙
一

海へ海へ首乃乃毒

るいんふんふんふん

あはれあはれあはれあはれ



20

